

おとうふ日和

おとうふは、どんな薬よりも勝るもの。

そのままでもよし、煮てもよし、焼いてもよし。本物の食はすぐそこにありました。

こんにちは。株式会社手造り屋 社長の岩崎勉です。

早いもので、「豆腐工場直販店手づくりやさん」の6周年を迎え、7月31日・8月1日と6回目の周年祭を行いましたところ、大勢の方々においで頂き、盛大に行うことができました。こころより感謝いたします。

先日、埼玉りそな銀行さんの旅行で山形米沢方面にいきました。その中で上杉家の代々の奥方の墓のある林泉寺に行ったとき「上杉謙信は義。」「直江兼統は愛。」鷹山公など12代続いた中で、それぞれ大変な中で義とか愛を信念に生きてきたことが、うかがわれ考えさせられました。

今の大変な時代。基本は義とか愛ではないかとあらためて思いました。しかしそれを守り第一としただけでは時代を生きていくのは難しい。上杉謙信は義を第一としながらも40回も戦争をしたのだろうか・・・

今の不況下を生きぬくかぎがあるのではないかと

“不識だるま”を買って帰りました。

● 第一義

林泉寺に信玄自記執の文字が大きく書かれていました。

第一義



義は第一ではあるが、第一で無いのが本当の意味ですよという説明をうけました。それは不識のいみを理解すれば解りますよと言われ不識だるまについて解ろうとしました。

● 不識庵謙信と林泉寺

上杉謙信公は林泉寺八代目の住職に『達磨不識の意旨如何』だるまの言った不識の意味はどういうのだ。といわれ苦修練行数力月の末、ついにその本旨に達したのである。

信玄公は、この難問題を解決してからというものは、自分を束縛する何ものもなくなって、これまで経験したこともないまったくおおらかな気持ちになり、戦場にあっても、政治を行っても、慌てず、騒がずテキパキとものごとの解決にあたることができた。そして真底、人びとと苦しみや悲しみを自分の悲しみとし、人びとの喜びを自分の喜びとした。私心名刺を放下して人びとの幸せを願ったのである。

● 不識 奥深い意味をもつものでただ「しらぬ」ということでなく、人間の識量をこえたところのもの「仏教の真理」を理解しないと解らない奥深いものと思いました。

● 企業の有り方を考えるならば、近江商人の「先義 後利」が考えられると思いました。義を守っていれば、利は自然とついてくるの教え。今の資本主義、競争の社会において守っている企業はいるのだろうか、義と利の比率が問題だと思えます、義が高ければ高いほど価値ある企業であるでしょうし、利を得ることには何でもする企業は永続することは難しいでしょうし、「不識」の意味が理解できて永続できる価値ある社会に認められる企業になるでしょうし、なりたいと思いました。